



かけこう

坂道を歩き、階段を上る。その先に…



校長 本間 達也

昨年度校長として着任しました本間達也です。二年目の今年度も「かけこう」をお願いいたします。後援会の皆様、地域の皆様には、益々「健勝」「活躍」のご声援を申し上げます。日頃より掛高教育活動におきまして、物心両面にわたりの支援とご協力を賜っておりますこと、衷心から御礼申し上げます。

昨年十一月十一日には、島根県知事丸山達也様、島根県議会副議長 山根成一様、雲南市長 石飛厚志様、後援会会長 景山俊太郎様、卒業生会会長 飯塚真様をはじめ多数の方々にご臨席いただき、創立七十周年記念式典を盛大に挙行することができました。また、記念事業を進めるにあたり、後援会、卒業生会、PTAの皆様方をはじめ、地域の皆様方の心温まるご支援とご協力を賜りましたことに対し、深く感謝し重ねて御礼申し上げます。

わい、猛暑・酷暑と表現されたこの夏も、九月に入り朝夕は涼しい風を感じられるようになった。学園歌「あめぞき霧清い」の情景にふさわしい季節になってきました。掛高生は、登校日には毎朝校舎のそびえる佐中の丘に向かって登校してきます。左中神社辺りの標高は約二百五〇m、校舎が位置するのは約二百一三〇m、つまり約三十五mほどの高低差を毎朝上っているわけですね。途中まではなだりかな坂が続きますが、最後は二十一段の階段が現れます。この階段を上り切ると初めて校舎にたどり着きます。階段を一段一段踏みしめながら上っていく姿を見る度に、一歩一歩努力を積み重ねながら自分の目標に向かって歩を進めていく掛高生の姿を重ね合わせています。歩くペースは

一人ひとりの異なっているにもかかわらず、時には休憩することも必要です。ゆっくりでも少しずつ進んで行けば必ず目標にたどり着けます。目標にたどり着く直前には、何かしらの困難が待ち受けていることがあるかもしれませんが、そんな時、掛高の登校路を思い出し、思い出したいのです。坂道をゆっくり歩き、階段を一段一段上るよう、自分の目標に向けて一歩一歩進んでください。急ぐ必要はありませんよ。

「掛高」は「本物」がある」を標榜し、地域の皆様のご支援・ご協力を受けながら掛高が実践してきた「本物の少人数教育」「本物の地域密着」「これらの教育活動を通して獲得した知識や経験は、きっとそれぞれの人生を歩んでいく掛高生の道しるべになるはず」です。そして、卒業後も掛高が、心のよきところ、と思ってもらえるような場所でありたいと思っています。

これからも、この地域に掛高があつてよかったと感じていただけるような学校づくりを、皆様と協働していきながら進め「あめぞき霧清い」を「あめぞき霧清い」の情景にふさわしい季節になってきました。掛高生は、登校日には毎朝校舎のそびえる佐中の丘に向かって登校してきます。左中神社辺りの標高は約二百五〇m、校舎が位置するのは約二百一三〇m、つまり約三十五mほどの高低差を毎朝上っているわけですね。途中まではなだりかな坂が続きますが、最後は二十一段の階段が現れます。この階段を上り切ると初めて校舎にたどり着きます。階段を一段一段踏みしめながら上っていく姿を見る度に、一歩一歩努力を積み重ねながら自分の目標に向かって歩を進めていく掛高生の姿を重ね合わせています。歩くペースは



掛合分校 後援会 事務局 (0854) 62-0084



令和五年度末 教職員異動のお知らせ

春の人事異動により、四名の教職員をお送りしました。在任中は、掛合分校の発展のために尽力いただき、ありがとうございました。新しく赴任された先生方には、これからお世話になります。

副校長	伊藤 尚子
保健体育	本間 英之
家庭	北浦 紀子
理科(生物)	山崎健太郎
○新任者	
副校長	小川 剛
保健体育	石原 衛
家庭	山本 朋子
部活動指導員	松下 周二
スクールソーシャルワーカー	岡田かおる
倉庫	藤原 隆

令和六年度入学式

〜真新しい制服に身を包んで〜

四月十日(水)、令和六年度入学式を行いました。前日までの雨がそのようにきれいに晴れ渡り、暖かく、穏やかな春の日差しが降り注ぐなか、在校生や来賓の方々、保護者、教職員に見守られて、新入生二十九名が入学しました。



本間校長から新入生へ向けて、まず「高校入学というこの機会に、これまでの自分に少し向き合ってみませんか?」として、これまで経験してきた多くの分岐点で決断してきた自分を認めてあげてはどうでしょう。色々あったかもしれないけど今の場所にいるじゃないか。頑張ってきたね

自分へ向き合おう。その先には、きっと新しい世界、可能性が開けていると思います。『そして』自分を表現するために、もう一人の自分になって自分自身の内面と向き合ってみませんか?一人ひとりに内在する可能性の芽は、ほかの人と比べるものではありません。その可能性の芽を見つけたら、自分なりの方法で少しずつ大きく育てていきましょう。その先に、あなた自身のパーソナリティが形づくられていくはず。そして、自分なりの方法で、自分を表現していきましょう。急がなくてもいいですよ。じつじつとゆっくりと向き合っていくきましょう。』と二つのメッセージが贈られました。

入学式のおとは、玄関前で保護者・教職員全員を交えた記念撮影を行ったのち、前日に在校生・教職員が心を込めて準備した教室で初めてのホームルームを迎えました。真新しい制服に身を包み、緊張のなかにも初々しさがかげえる一日となりました。

一年生 地域探究学習

〜掛合町内フィールドワーク〜

五月二十一日(火)、一年生の地域探究学習がスタートしました。手始めは、広い掛合町の五地区をバスで巡る「掛合ツアー」です。この取り組みは今年度で三回目、各地区の寺社や名所をまわり、地区の方のお話をお聞きして学びたいを目的としています。

①波多地区：波多神社



宮司さんと禰宜さんから神社の由緒や過去にあった大杉、はやしこなどの伝統行事へかける地区の方々の交流センター



一長さんから神社の由来や花田植えのお話をお聞きしました。神社への急な階段

に息も上がりましたが、みんなで声をかけあって登ることができました。大岩を背景にした神社には建立の謎が深まりました。



松笠 一縁の館会長の案内で滝の

名称の由来、滝にまつわる伝説などお聞きしました。実際に見た滝には歓声が上がりました。汗ばんだ体にマイナスイオンの風が心地よかったです。



前会長さんから「多根」の由来や円通寺の由緒や秘仏についてお話しいただきました。現在は任職の方が

不在であることなどお聞きし、なんとかしたい思いがわきました。生徒たちのにぎやかな声に前会長さんも喜んでくださいました。



分校の近くにあるながら生徒たちにはあまり知られていなかったかもいれませ

を見学できる施設で、展示室での映像などもあり、日本酒の文化を学びました。立ち上る日本酒の香りに酔いしれました。

一年生は担当地区を決め、昨年度の一年生の活動を継承しつつ自分たちで創意工夫を重ねながら、今後、地域課題に取り組みしていきます。

一年生 地域貢献活動

〜ブランド米販売促進活動〜

五月九日(木)に二年生が「営農体験実習(田植え)」を行いました。当日朝はあまりの寒さに震えましたが、や

がて好天に恵まれ、気持ちの良い気温の中で実習を行うことができました。午前中は、まず宇山営農組合代表理事の藤井さん、理事の須山さんから、組合の現状や課題、「たたら燻米(ほむらまい)」「うやま米」の米作りの様子などを、クイズを交えて詳しくお聞きしました。次に、雲南市農業畜産課の野々村さんから、輸出先の台湾について写真を見ながら使っている紹介していただき、お米について学びました。その後、二班に分かれて、営農組合のお二人ハイタワービューをしました。米作りのやりがい・楽しさや苦労、宇山地区のお米のおいしさなど、次々に質問しました。

昼食は準備していただいたうやま米のご飯の入ったお弁当をいただきました。一口目から歓声が沸き上がるなか、お米の甘さやおいしさを味わいながらその魅力を感じることができました。昼食後はいよいよ田植えです。農具「はばひき」を使ったライン引きも教えてもらい、その線の上に、全員で苗を植えていきました。田植え経験者も何人かいますが、多くの生徒は初めてでした。青空の下、賑やかな声と足元がおぼつかない中で、思わず尻もちをついたり、泥だらけになったりして、農家の方々の大変さを実感することができましたが、楽しくて時間があっという間だった「まだやってみたい」とみんなで協力して田植えができたことに達成感を抱く生徒も多かったです。

今後、宇山営農組合の皆様や関係方面の方々と協働しながら「たたら燻米」「うやま米」の販売戦略、広報などを行っていく、秋には稲刈り、台湾研修での販売も体験します。さすがにいい天気の下、どんだん緑の稲がきれいに植えられていく様は見事なものでした。



三年生 ボランティア研修会 〜絵手紙ワークショップ〜

六月十日(月)一・二限に、三年生ボランティア研修会(絵手紙ワークショップ)を行いました。

「様々なボランティア活動があることを知ろう」「ボランティアの素晴らしさについて知ろう」「ボランティア活動のやりがいや楽しさを体感しよう」の三つを目的に、雲南市社会福祉協議会三刀屋絵手紙ボランティアの会から講師をお招きし講演いただきました。特に『ボランティアは、自分の得意なこと、やってみたいこと、気になること、好きなこと、放っておけないことなどを、誰かのために活動することであり、決して特別なものではない。そしてその活動が自分自身を成長させるきっかけにもなる。』という言葉がたいへん印象的でした。



その後、絵手紙ワークショップに移りましたが、普段の水彩画とは違い、「決まったかき方や形式がない、感じだままに自由にかこう。ハタでいい、ハタがいい。」と助言を



いただいた。きながら、身体物を前に筆を動かしました。送り先は地域の「方」に「と受け取る方が見えない中での活動でしたが、それぞれの発想を届け、絵にこぼすかいていきました。

写真の成果物を「ご覧ください。誰かのためになつてほしい。」「そして自分もつれい」と感じた生徒が多くいたはず。

「人間Day」 〜人間花田植え〜

五月二十六日(日)を「人間Day」として、一・二年生が「人間花田植え」に、一年生が「八重滝を見学するツアー」にそれぞれ参加しました。

まず、入間交流センターをばやし一行が田んぼに向けて出発し、女子生徒は伝統衣装を身につけ早乙女(さおとめ)となり田植えを、男子生徒は法被(はっぴ)を着て苗渡しをしました。地域の方や分校の卒業生たちの参加もあり、総勢四十名ほどの早乙女さんが一列になって、賑やかに田植えが行われました。



一年生の多くは初めての水田で、始めは思うように進めない者がいました。また、昨年度宇山地区での田植えを経験した三年生にも、おは

やしの早々に追いつかず戸惑いが見られましたが、いずれも徐々にペースをつかみ、地域の方々と一緒に笑顔で楽しんでいました。苗渡しの男子も早乙女さんの植えていく様子を後ろからしっかりと見守りながら、絶妙なタイミングで苗を渡していました。



二年生は、昨年度の掛合町内バスツアーにおいて八重山神社を見学しました。それをきっかけとして一年間の探究学習(地域学習)で入間地区を希

望したグループは、八重滝を回るスタンブリーを企画しスタンプを作成しました。その設置までは至らず、残念ながら昨年度中には八重滝へ行けないうまま終わりました。そのため、今回はその希望を叶える形にもなりました。二十五度を超える気温でしたが、心

令和六年度体育祭 〜優気皆大福 諦めず闘え〜

七月十二日(金)、三刀屋文化体育館アスパルで体育祭を行いました。この前日の現地リハーサルまでは、連日降る大雨にたいへん心配させられました。体育祭当日も途中雨が降りましたが、屋内開催のため、安心して行うことができました。

開会式後にはPTAから会長様の激励の言葉と差し入れをいただき、競技が始まりました。一種目の「サイコロリレー」は、走る前にサイコロを振り、バトン代わりにそのサイコロを持って出た目の数を書かれたコーンを回ってコーンラインへ戻り、次の走者へバトンパスするという新種目でした。走力だけでなく、運(サイコロの目)も味方につけなければ早くゴールできないため、苦戦する生徒が続出するなど、白熱した競技が繰り広げられました。風前には応援合戦がありました。赤組、青組それぞれにこまめ準備してきたダンス、パフォーマンス、衣装をしっかりとアピールし、どちらの組も三年生を中心によくまとまっています。午前の部が終わった時点で競技得点は僅差、午後の部開始の「綱引き」にますます白熱した闘いが繰り広げられ、最後の「選抜リレー」は、走者ももちろん、見て



いる全員が感動と興奮の渦に巻き込まれる接戦でした。まさに体育祭テーマ「優気皆大福(ゆきみだいふく)」にふさわしい闘いでした。競技、応援、衣装、デコも含めた総合優勝は青組でした。赤組もわずかの差でしたが、精一杯闘っている姿は素晴らしいものでした。勝ち負けに関係なく、今日のこの日のために準備を重ねてきた成果を発揮し、全員がこの体育祭にしっかりと向き合っていました。そして終わったその先に、みんなで作上げた小さな学校でも大きなパワーを感じられる体育祭がそれぞれ思い出に刻まれたことと思います。ここで身につけた力を基に、今後の学校生活を充実したものにできると信じています。朝早くからたくさん保護者の皆様にも応援していただき、ありがとうございました。

一年生 キャリア教育 〜地元企業見学〜

七月十七日(水)、一年生が地元企業見学へ出かけました。

協栄金属では、会社の概要をたくさんお聞きしたり、実際に金属加工の現場で自分たちの先輩の働く姿を目の当たりにしたりしました。島根イーグルでは、国産車・海外車のエンジンに必要な部品を作っているところを見学し、その部品が世の中のほぼすべての車に対応していることを知りました。

本商店では、三年前に市内で操業を開始され、出雲そばやパスタの麺を製造されています。美味しいそばづくりのために品質管理を徹底し、チャンネルシシ続けておられる様子を見ました。最後のTOAでは、化粧品製造ラインを見学しました。受託生産が中心ですが、研究部門もあることなども説明していただきました。

どの企業も世界シェアや国内シェアのトップであったり、そこできかない技術や製品を持つておられ、また徹底した品質管理など、初めて知った体験したりすることばかりで、一日があっという間に過ぎました。また、お昼は雲南市役所の会議室を

文部科学省 『DXハイスクール』に採択

『高等学校DX加速化推進事業(通称DXハイスクール)』は、文部科学省が「高校段階でデジタル成長分野を支える人材育成の強化」を目指し新たに立ち上げた事業です。デジタル教育の拠点として全国の高校から十校(うち県内二十七校)が採択され、掛合高校もその一校として選ばれました。

今後はICT活用のための環境を整備して、近隣の小中学校との交流など地域連携を図り、高校生が地域の中学生にデジタル技術の指導をするなど、デジタル人材の育成につなげていきます。

高等学校DX加速化推進事業 (DXハイスクール) 成長分野の担い手増加 文部科学省 採択校一覧

◆事務局より

【創立七十周年記念事業について】 昨年度島根県立三刀屋高等学校掛合分校は創立七十周年を迎えましたが、創立七十周年記念事業実行委員会より事業の最終報告をいたします。

今後とも掛合分校の教育活動にお力を賜りますよう、よろしくお祈り申し上げます。 ○寄付御礼 記念事業にあたり、多方面よりご寄付をいただき、三百四十万円を超える額となりました。後援会、PTAからもこの十年間に積立をいただき、総額六百三十三万五千九百九十九円となりました。これらのご厚志は式典関係、記念品、学校活性化事業、記念誌の発行等に使用していただきました。簡単な披露に併せ、厚くお礼申し上げます。 ○記念誌の発行 八月上旬、創立七十周年記念誌が発刊の運びに至りました。三月末発刊予定でしたが、たいへん遅くなり申し訳ございませんでした。 編纂に際し、関係の皆様からご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

創立七十周年記念誌 編集後記 平素より、後援会の皆様、地域の皆様には掛合分校の教育活動に、格別のご理解と尽力をいただき、また会費の納入等にもご協力いただき誠にありがとうございます。 生徒の学習活動や施設・設備の充実に向けて参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をいただきますようよろしくお祈りいたします。